

歩いてみよう 小田原城総構

日時：2014年10月22日（火） 天候：曇り時々晴れ 15000歩 約10km

集合：小田原駅新幹線西口 10時

コース：小田原駅西口⇒北条早雲像⇒めだかの学校⇒城下張出⇒山の神堀切⇒稲荷森⇒小峰御鐘ノ台大堀切⇒早川口遺構⇒小田原城址公園⇒八幡山古郭東曲輪⇒小田原駅東口（解散）

参加者：内海（L） 畠（SL） ※北条五代に因み班分け 計27名

■初代 早雲組 班長＝奥村 内海 尾形 高橋文 勅使河原 大島 川合 平嶋 山内

■二代 氏綱組 班長＝望月 畠 五十嵐志 田村 小島 吉越 山口 鈴木宏 佐藤伊

■三代 氏康組 班長＝飯田 栗原 熊坂 工藤 高橋吉 脇坂 瀧川 市村 五十嵐し

小田原城は北条早雲に始まる北条氏の居城として、その威容を誇る小田原のランドマークでもあります。天下統一を目指す秀吉軍22万の前に落城し、関東一円に王国を築いた名門北条氏もここに終焉を迎えました。

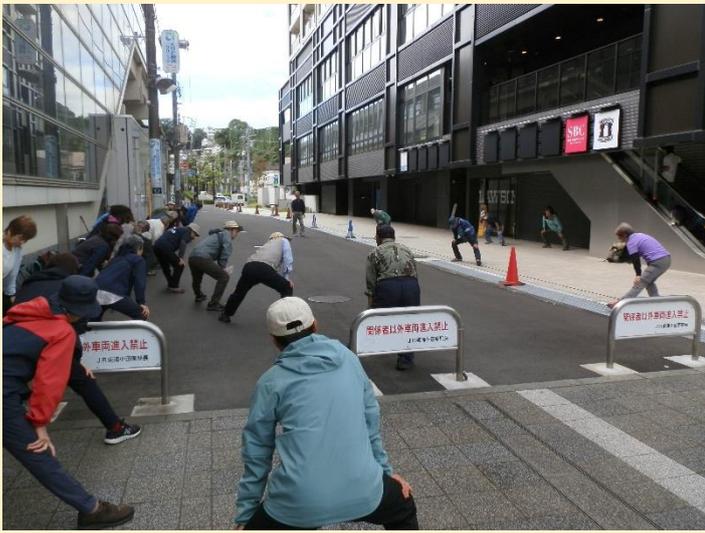
ここには城下を取り巻く「総構（そうがまえ）」と呼ばれる防御施設が巡らされていましたが、この総構は秀吉や他の武将たちも参考として、その後の城づくりに影響を与えたと言われています。今回は9kmにも及ぶ総構の主要な遺構箇所を辿りながら、当時の小田原城を偲んで歩きました。朝方は冷え込んだものの、コースには結構なアップダウンがある上、日中は気温も上がり汗ばむほどになりました。

<フォトレポート 小島>



小峰御鐘ノ台大堀切東堀で全員集合。総構の大堀切は東堀・中堀・西堀の三本で出来ており、東堀は幅約2～30m 深さは約12m、角度は50～60度の急勾配。堀底にいると左右から弓矢や鉄砲で撃たれそうな気配が・・・

※写真は堀切を強調するため「フィッシュアイ」で撮っているため、左右の人物が若干湾曲して写っています。📷



10時には全員が揃い、ストレッチの後は本日のリーダー内海さんからコースとポイントの説明があり。



スタートにあたり、まずは小田原駅西口前にある北条早雲公にご挨拶。「おじゃまします」！
 そう言えばこのフレーズで人気があった三味線漫談の南州太郎がいましたが・・・まだ元気？



案内板。踏んでいるのは誰の足？



荻窪用水にある「めだかの学校」



小川沿いには水車と歌碑がある。



「城下張出」(しろした)：城源寺周辺の小字で遺構は城源寺の裏山に位置する。小田原城では城外へと張り出す構造がいくつか見られるが、小田原城の北端に位置する事から北面の最前線基地と考えられる。



「山ノ神堀切」：小田原城の北側を守る重要な堀で、谷津丘陵上の通行を制約するために構築された。北側は小峯御鐘ノ台大堀切西堀と同様に高低差をもって総構堀と連結し、南側の百姓曲輪の西堀と連携している。



「稻荷森」：総構の中でも最も良好に遺構が残っている場所のひとつで、総構の堀が地形に沿って弧を描いているのが確認できる。内側には、わずかに土塁の痕跡が残り、外側にも「掻き上げ土塁」と称する土塁の痕跡が確認できる。深さ約 10m にもおよぶ総構堀は、尾根の頂部からやや下がった部分に構築され、外側にも土塁を築くことで、ふもとから攻め寄せる敵兵からは堀の存在が確認できないように工夫されている。



「小峯御鐘ノ台大堀切西堀」：小峯御鐘ノ台大堀切西堀は、天正 18(1590)年の小田原合戦への備えとして、小田原城の防衛機能をより堅固なものとする雄大な空堀と土塁がつくられた。一部は私有地となっている。



「小峰御鐘ノ台大堀切東堀」：この傾斜角、人間はもちろん鹿や猪も落ちたら上がれそうにないかも。



堀底道は曲線状になっていて横矢掛けが効いている。

小田原合戦を見つめてきたであろう老木。

「城の変遷」：城とは文字通り土で成る構造物。当初は高い場所に築いた山城が主だったが、時代と共に平地に移っている。山城は敵から守るために主郭を中心にして曲輪を配置し、横堀や豎堀の防御機能と土橋等で敵の進入を防いだ。ただ山城は居住の場ではなく、あくまで戦いの場であったので平時には麓の館で生活していた。城と言うと天守閣と高い石垣を思い浮かべるが、それらは信長以降の時代の城で、それまでの本丸には木造の小屋程度の建物しかなかった。

日本の三大山城と言われるのは、岡山県にある備中松山城、奈良県の高取城、岐阜県の恵那市にある岩村城。中でも岩村城は、最後はあの織田信長の伯母にあたるお艶の方が守った城で、地元城下には「女城主」と言う地酒をつくる岩村酒造もある。また岩村藩の御典医が長崎で製法を学んできて作ったと言われるカステラがあり、今風のものとは異なりかなりボソボソとしているが、昔の味だと思えば味わい深いものがある。個人的には岩村城が一押しでこれまで数回登城しているが、城に向かうなだらかな大手道に沿った町家の風情が何とも言えずお勧めの地。



深刻(?) そうなお二人。何かあったのでしょうか。



こちらはおやつ休憩で悩みなどなさそうな面々。



住宅街に現れたゾンビ? ハロウィン用か。



小田原文学館。白秋童謡館もある。



「報徳二宮神社」:明治27年(1894)4月、二宮尊徳翁の教えを慕う6カ国(伊豆、三河、遠江、駿河、甲斐、相模)の報徳社の総意により、翁を御祭神として、生誕地である小田原の、小田原城二の丸小峰曲輪の一角に神社が創建された。明治42年本殿・幣殿を新築、拝殿を改築し、神苑を拡張し現在の社地の景観を整えた。平成6年(1994)には創建百年記念奉告祭を斎行して今日に至っている。



「八幡山古郭」:八幡山遺構群とも呼ばれ、小田原駅の南西側に位置する丘陵上に東曲輪などいくつかの曲輪を展開し、戦国時代の小田原城を形成した場所。県立小田原高校地内の発掘調査でも、大規模な石組みを持つ井戸や障子堀などが確認されている。

「八幡山古郭東曲輪」:戦国期の小田原城の遺構で、15世紀末、伊勢宗瑞(北条早雲)が大森藤頼を破った頃の小田原城の中心地の一つであったと考えられている場所で、県立小田原高校からその東側にかけての一带にあたり、中世の小田原城を考える上での重要な場所。



この場所は小田原城と海を望む絶好の撮影スポット。休日にはカップルで賑わうが、高齢者にも人気の場所？

「北条早雲」:早雲と呼ばれたのは二代の氏綱の時代から。それまでは伊勢宗瑞もしくは伊勢新九郎と名乗っており居城は菰山城だった。もともとは備中井原の名門伊勢氏の流れをくむが、伊豆一国を手に入れた後は大森氏の小田原城を攻め落とし北条王国を築いた。その攻城戦では伊豆の鹿が小田原領に逃げ込んだので、追いつくために勢子を入れさせたいと騙し、勢子に化けた一隊が「火牛の計」を使い、一気に小田原城に攻め込んで城を奪ってしまった。

以前から早雲は小田原城の大森藤頼には何かと贈り物をして誼を通じて心を掴んでいたようで、油断した藤頼は虚を突かれた。戦国の時代では例え親族と言えども油断ならないもの、その意味では藤頼は武将としては甘かったようだ。

「秀吉の小田原攻め」：きっかけとなったのは上州沼田領を巡る北条と真田との長年の領地争いにある。天下統一を目指す秀吉は、全国の大名家の争いをなくすための「総無事令」を出した。沼田領も秀吉の仲裁で 2/3を北条領、1/3を真田領とし一旦は収まったが、真田方が守る「名胡桃城」を北条方が突然急襲しこれを奪ってしまった。

そこで真田昌幸は北条方の暴挙を秀吉に訴え出た。これまで再三の要請にも拘わらず北条氏が秀吉の元に上洛しなかったこともあり、ここが北条王国を一気に叩くチャンスと考えた秀吉は、22万の大軍を持って小田原に迫った。小田原方は総構を造り防備を万全にしたが、4万に満たない守備兵では如何にも多勢に無勢。

関東にあった北条方の諸城も次々に落城し、小田原城は孤立無援となってしまったが、天下一の防御を誇る城は簡単には落ちず約3ヶ月持ちこたえた。この間、城内からは寝返る武将や逃亡する城兵が後を絶たず、士気が一気に低下。ここに至り北条氏政・氏直は開城を決意し秀吉の軍門に下った。氏政は切腹、氏直は高野山に蟄居となった。

最後まで上洛を拒んでいた伊達政宗も石垣山城の秀吉の元に来て頭を下げた。その政宗は白装束で秀吉の前に現れたが、それを見て秀吉は政宗の遅参を許し所領も安堵した。ここに至り秀吉の天下統一がなされた。



最後は八幡山東曲輪下でクールダウン。
小田原城に向かって北条万歳をしているのは誰？



ゴールは小田原駅東口。皆さんお疲れ様でした！
この後はまたアフターでお疲れの人も？

<今日の一言>

これまで20年以上にわたり中世の山城を主に歩いてきたもので、城巡りということで久々でのウォーク参加となった。ここ小田原城には過去に何回か来ているが、総講を歩くのは初めてで、小峰御鐘ノ台の大堀切には驚かされた。

ただ最後には久々のせいか足が攣ってしまい、リーダーに心配をかけてしまったのが悔やまれた。これを機にまた参加回数を増やしたいが、短めのコースを主に体調と相談の上で考えていきたいと思う。

END

